

京都アカデミアの理念と活動

舟木徹男

(ふなき てつお / NPO法人京都アカデミア理事)

京都アカデミアメールアドレス
kyotoacademia@gmail.com
公式サイト
http://www.kyoto-academia.sakura.ne.jp

はじめに

近年、大学以外の様々な場所で取り組まれている新しい哲学運動についての特集の一環として、京都アカデミア（以下、略称は京アカ）にも紙幅をいただいた。京都アカデミアの活動は狭義の哲学に限定されるものではないが、その理念と活動をここに紹介させていただく。

1. 変容する大学と京都アカデミアの理念

この四半世紀にわたり、大学での教育内容の重点を経済的実利に直結させる方向での改革が、産業界の要請を受けた文科省によって推進されてきた。そうした圧力のもと、大学は次第に就職予備校化し、教育内容も細分化が進んでいる。しかし、そうした趨勢の一方で、広く自己と世界について仲間とともに学び考えたいという「教養への渇き」を訴える切実な思いもまた、学生や社会人の間で高まっている。

そうした思いを共有する京都大学の大学院生を中心に、2010年4月、京都アカデミアは有志団体として設立された。京都アカデミアの設立理念を端的に表現すれば、「大学や専門の垣根を越え、広く市民に開かれた知的活動の基盤を構築・提供すること」と言える。

その後学生や社会人などの枠に捕らわれない多彩なメンバーの参加により、発展を遂げてきた。そして2013年には活動体制を整備し、NPO法人として新たに出発した。

こうしてNPO法人京都アカデミアは、今年(2020年)で設立から8年目を迎える。当初20名前後の会員からスタートしたが、現在、正会員32名、賛助会員8名、ML会員約200名から成り、徐々に会員数を増加させている。会員の顔触れは大学教員・学生から会社員・自由業・主婦まで多彩である。また、会員の専門領域は社会学・政治学・法学・経済学・哲学・精神分析学・民俗学など、人文社会科学系が多いが、コンピュータサイエンスなど自然科学系を専門とする会員もいる。

2. 京都アカデミアの活動

次に、京都アカデミアのこれまでの運営・活動について紹介する。

2-1 運営

NPO法人京都アカデミアは、毎年2月の総会で役員として3〜5名の理事と1名の監事を選出する。その後の活動は、年数回の定例運営会議(正会員・賛助会員に参加資格あり)を中心に計画・実施される。運営会議では参加者が活動内容について自由に意見を出し合う。また、定例会議以外では、正会員用のメーリングリストでやり取りして話を進めることが多い。こうして、以下に記すような様々な活動を行ってきた。

2-2 勉強会・読書会

団体設立の趣旨からして、その活動の中心となるのは、広く市民に開かれた勉強会や読書会である。それらにもいくつかの形態があるが、その一端を紹介する。

①「アカデミア・カフェ」

テーマをひとつ決めて、皆で自由に語り合う集い。過去のテーマの例を挙げれば、「就活の「くだらなさ」を超えて」、「ハジメを考える」、「たべるをつくる たべるとくらす」ダイエットから自給自足まで」、「「草食系時代」の婚活論」など。

②「京アカゼミ」

京アカ会員が、関心のある専門テーマについて、ゼミ形式で発表する。討論には誰でも参加できる。大学のゼミとは違って、全くの異分野の参加者から新鮮な意見や批評を受け取ることができ、発表者・討論者の双方にとって刺激的な学びの場

となる。

これまでの発表題目の例を挙げれば、「精神分析から見る現代の知のあり方」(浅野直樹会員)、「瀬木比呂志の裁判学いわゆる「絶望の裁判所」論をめぐって」(岡室悠介会員)、「ハンナ・アーレント入門」(百木渙会員)、「今こそ廣松渉を読み返す」(渡辺恭彦会員)、「アジールの現在と未来」(舟木徹男会員)など。

③「批評鍋」・「批評素麺」

運営会議で選んだ書物を参加者があらかじめ読んできて、鍋をつまみながら(冬季)、あるいは素麺をすすりながら(夏季)、書物の内容についてあれこれ自由に論じ合うイベント。ネットでの実況中継も同時に行われる。会の記録は YouTube にアップロードされている。

これまでに扱った書物としては、pha『ニートの歩き方』(技術評論社)、橋爪大三郎・大澤真幸『ゆかいな仏教』(サンガ新書)、北条かや『キャバ嬢の社会学』(星海社)、坂爪真吾『男子の貞操―僕らの性は、僕らが語る』(ちくま新書)などが挙げられる。

④読書会

誰でも自由に参加できる形で、オーソドックスな読書会も継続的に開催している。特定のテーマや書物で読書会をしたと思う会員が、同志を誘って企画し、メーリングリストで開催を告知するという形態が多い。担当者がレジメを作ってくる形式であれば、その場で集まって皆で輪読する形式もある。開催のペースは参加者の都合に合わせてそれぞれの読書会ごとに調整している。

これまでに開催された読書会と書物の例を挙げれば、「憲法読書会」では、矢部宏治『知ってはいけない』(講談社現代新書)、篠田英朗『ほんとうの憲法』(ちくま新書)などを扱い、「聖書読書会」では、「ヨブ記」「マタイ福音書」「コリント人への手紙」などを扱った。

⑤「話題の本がわかる!」

上記「批評鍋(素麺)」や「読書会」ではやや専門的な学術書を、原則として事前に読んでおくことが求められるが、こちらは「読むの面倒だけど概要だけ知りたい人歓迎!」というコンセプトのもと、話題のベストセラーを担当者が要約して発表し、参加者と共に自由に議論するイベント。

これまでに扱った書物は新井紀子『A I v s 教科書が読めない子どもたち』(東洋経済新報社)、アンドリュウ・スコット他『ライフ・シフト 100年時代の人生戦略』(東洋経済新報社)、打越正行『ヤンキーと地元』(筑摩書房)、小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』(講談社現代新書)など。

2-1-3 書評

参加者が顔を合わせるイベント以外の活動として、公式サイトや京アカブログでの書評の掲載がある。不定期であるが、会員が「これは!」と思った書物について、随時書評を掲載する。

これまでに対象となった書物には、村上龍『逃げる中高年、欲望のない若者たち』(ベストセラーズ)〔積田俊雄会員〕、山下範久著『現代帝国論―人類史の中のグローバリゼーション』(NNKブックス)〔上野大樹会員〕、エリック・ホッファー『波止場日記』(みすず書房)〔中島啓勝会員〕などがある。

2-1-4 他団体のイベントへの出張

京都には京アカ以外にもいくつもの勉強サークルがある。そうした他団体と連携したイベントへと京アカ会員が出張する場合もある。

これまでの例では京都市左京区のカルチャースクールGACCCHさんの連続レクチャー企画「やっぱり知りたい!」シリーズにおいて、百木渙会員がハンナ・アーレントについて、岡安裕介会員が民俗学について、それぞれレクチャーを行っている。また浅野直樹会員は医療系の任意団体において「NPOの作り方」のレクチャーを行っている。

2-1-5 京都アカデミア塾

京都アカデミアの各会員が持つ知識をより広く社会に共有してもらうことを主たる目的として、また、会員の収入源の一つとすることを副次的な目的として、一部の会員の専門分野の授業をオーダーメイドで提供する「京都アカデミア塾」を運営している。

開講科目の例を挙げれば、「京都学派を学ぶ」「公共哲学入門」「初級経済学」「心理学入門」「日本財政がわかる」「TOEIC英語」「論文の読み書き」など多数。京アカ会員同士で受講する場合もある。

2-16 活動の場と媒体

イベントの開催場所は京都大学周辺が多く、「左京西部いきいき市民活動センター」(出町柳駅5分)や内田光枝会員の経営するイベントスペース「カンノコ北大路」(北大路駅10分)が主な会場となっている。なお、参加メンバーの都合によつては、京都以外で行われる場合もある。イベントの広報や会員間の連絡は、京アカメーリングリスト(正会員用・ML会員用)のほか、Facebookやtwitterなどのソーシャルメディアを活用している。

3. 入会案内

京アカデミアは今後のさらなる活性化のために、新規会員を随時募集している(入会費1000円、年会費は正会員1000円、賛助会員は1口1000円から)。入会手続きの詳細は公式サイトを参照されたい。会員になるメリットには、以下のようなものがある。

- ① 定例運営会議に参加することで、京アカデミアでやってみたい活動や、やってほしい活動を提案・実行できる。
 - ② 会員が京アカ以外の場で関わっているイベントなどの情報を、MLを通じて京アカメンバーとも共有することができる。
 - ③ 博士課程の修了者などが学会活動などをおこなう際に、NPO法人京アカデミアを「所属先」として記すことができる。また、履歴書の「社会活動・ボランティアなどの経験」の欄に、京アカデミアでの活動を記載できる。
 - ④ 関連業務「京アカデミア塾」での授業を担当することで副収入の可能性を広げることができる。
- なお、積極的な関与は望まれないが、イベントなどの情報だけを受け取りたい場合には、MLのみの会員となることもできる(無料)。

おわりに

以上、京アカデミアの理念と活動について、その一端を紹介した。日本社会の世相は性急に実利を求める方向に向かっているが、そうした趨勢のなかのオアシスとして、京アカのような学びの場は今後ますます求められると思われる。他団体とも連携しつつ、今後も多彩な活動を続けてゆく予定である。本稿をご覧になった方々の、京アカデミアへの入会をお待ちしています。(了)

舟木徹男 自己紹介

肩書き：京都大学非常勤講師

研究テーマ：宗教学・社会思想史・アジール論

著訳書：『知の教科書フロイトⅡラカン』(共著)

ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門』(共訳)

オルトヴィン・ヘンズラー『アジール その歴史と諸形態』(訳・改題)

論文「親鸞思想におけるへ生さる意味」

— 神谷美恵子とフランクを媒介に(第30回 梶鳥敏賞)

